

2022 全日本ボクシング選手権大会



歴代最多
7階級制覇

令和4年11月22日～27日までの間、東京都墨田区総合体育館で実施された2022年全日本ボクシング選手権大会に本校ボクシング班から9名が参加し、7名が優勝する快挙を成し遂げた。

優勝した7名については、来年実施予定である杭州アジア競技大会（パリ五輪予選となる予定）への出場権を獲得するため、BOXOFF※1に挑む。

貫禄の2連覇



写真左 並木3曹、右 コーチ矢田1曹
3等陸曹 並木 月海

銀メダルを獲得したアジア選手権大会（ヨルダン）から帰国し、約10日での試合となった並木月海3等陸曹は、女子ライトフライ級準々決勝、準決勝と日本体育大学の選手を相手に3ラウンド RSC※2勝ちで決勝進出を決める。決勝の相手は、ジュニア時代から日本代表として活躍する長身の篠原選手（青山学院大）。足を使いリングをサークリングしながら鋭いステップで攻撃をしかける並木3曹と、それを追いつながら長いストレートでヒットを狙う篠原選手だったが、ボディーへのストレートと角度を変えた力強い左右のパンチで圧倒し、終始主導権を握った並木3曹が2年連続2度目の優勝を果たした。試合後、「（アジア選手権大会から）長期間の試合モードから解放されるので、楽しく食事ができます。今後は、パリ五輪に繋がる BOXOFF に合わせて作り上げていきたい。そして、とにかく純粋にボクシングを楽しみたいです。」と語った。

入隊1年目の堀内美沙紀2等陸曹は女子バンタム級準決勝から登場した。東洋大学のホープ原田選手に勝利し勢いによって臨む決勝戦は、アンダージュニア（小・中学生の部）からの実力者である小川選手（小川鉄工）との対戦。第1ラウンド、出入りのフットワークでリズムをとり、前にでてくる相手の攻撃をバックステップで外し反撃の右ストレートをヒットさせる。また、接近戦でクリンチをする相手には左右のパンチをアグレッシブに振り当てポイントを稼いでいく。第2ラウンド以降も挽回しようとする相手に再三パンチをヒットさせポイントで相手を上回り、自身初の全日本選手権優勝を果たした。試合後、「今までずっと3位だったので全日本チャンピオンまでやっとこれました。長かったです。今後は、課題を修正し BOXOFF、そしてパリ五輪に向けて頑張っていきたいです。」と冷静に語った。

悲願の初優勝



2等陸曹 堀内 美沙紀

リベンジ優勝



2等陸曹 田口 綾華

昨年準優勝の田口綾華2等陸曹は、女子ライト級準決勝を危なげなく勝利し、決勝の相手は昨年の優勝者である田中選手（芦屋大学）。サウスポー同士の対戦、当初、右ストレートの差し合いで田口2曹のパンチがヒットする。相手のワンツーストレートを外しながら左ストレートをヒットさせリズムに乗る田口2曹は、第2ラウンド以降も更にタイミングを掴み、ストレートパンチを深くクリーンヒットさせポイントを重ねる。終始自分のペースで試合を運び、有効打を当て続けて5-0のポイント勝ち。通算3度目の全日本選手権優勝を果たした。セコンドについた成松1尉が「やってきたことが全部で。」というように完勝の内容だった。試合後、「やりたいたことができました。前に出てプレッシャーをかけて攻撃することができました。パリ五輪でメダルを獲れるように頑張ってお練習していきたいです。」と笑顔で語った。

